



園だより

令和 7年 11月 1日
佛教大学附属こども園

「佛教保育 11月のねらい」
精進努力

「失敗する権利」

「運動会」や「お庭で遊ぼう」では、一人ひとりの子どもたちがやってみたいこと、楽しいと感じていることに挑戦していました。

これまでの取り組みの中では様々な子どものドラマがありました。一生懸命取り組んでいるのに転んだり、友だちと思いがぶつかったり、そのような一場面はもしかして大人の目から見ると「幼いうちからこんな思いをしなくてもいいのに…」そんな風に思える場面なのかもしれません。

5歳児の取り組みを紹介します。同じチームの仲間とバトンを渡す練習をしたり、走る順番を決めたり、筋トレをしたり…。日に日に友だちとバトンだけではなく気持ちをつなぐことの大切さにも気付いてきました。

そしてこの日もりレーに取り組みました。その時Aくんが違うチームの人にバトンを渡してしまうという想定外のことが起こりました。すると、自然とこのチームの子ども会議が始まりました。次の機会に間違えないようにするにはどうしたらいいか考えます。うまくいかなかったことについて、次はどうするかを考えることはとても大切です。でもAくんは「間違えちゃった…」と気持ちが折れてしまいました。次の勝負を前に「走りたくない…。」とつぶやきます。「じゃあ、Aくんの代わりにだれが走る？」と一度は決めました。

でも…同じチームのBくんがAくんのところへ歩み寄り、「やっぱりAくんないと勝てへん。一緒に走ってほしい。一緒に走らへん？」と声をかけました。

そしてその後、Aくんは自分の役割を果たそうと気持ちを立て直して走り切ったのです。チームのために自分の任された役割を果たそうとしたAくんの姿や「あなたのことが必要」という気持ちを伝え友だちの気持ちを奮い立たせたBくんの姿に胸が熱くなりました。

目的を共有して取り組んでいても、思わぬことや不本意なこと、「しっぱいしちゃった」と落ち込むことがあります。でも、このような経験があるからこそ、他の人の思いに寄り添ったり、折れた気持ちを立て直したり、根気強く頑張ったりすることができるようになるのでしょうか。

今、若者の「失敗したと同時に心が折れてしまう、社会から心を閉ざしてしまう」そういう姿が多いことが問題になっています。生きていく上でうまくいかないこと、予想通りにいかないことはたくさんあります。だからこそ、私たち子どもに関わる大人は子どもたちに失敗しないように関わるよりも、「失敗する」という経験をちゃんと保証すること、そして「きっと大丈夫だよ」と子どもを信頼しゆっくり心を立て直す姿を見守るという姿勢が問われるのだと思います。そのことが精進努力「最後までやりとげよう」という心の根っここの育ちとなるのではないでしょうか。私たち子どもに関わる大人は、今一度、子どもの「失敗する権利」について考えていきたいものです。



副園長 村上真理子